

# 世界自然遺産の小笠原諸島 鳥見の旅

文:三宅 隆 写真:小泉金治・三宅 隆



トビウオを追いかけるカツオドリ



船のデッキから見られたアホウドリ



小笠原固有種のメグロ



海岸に群れるネムリブカ



ザトウクジラのブリ-チング



特定外来種のグリーンアノール. 左下: アノールホイホイ

4月始め、野鳥の会静岡支部の仲間4人で小笠原を訪れました。全員、小笠原は初めてで、片道24時間の船旅は、船酔いの前に酒酔いになる仲間でした。

行きの航海中では、明るいうちはデッキに出て、ミズナギドリやアホウドリの観察を続け、なんとか3種類のアホウドリを見ることができました。父島に着いて後、さらに母島に移動。今回の最大の目的メグロに出会いました。その後2日間島を巡り、島固有亜種のハシナガウグイスやアカガシラカラスバト、オガサワラノスリ等を見ましたが、他には鳥の種類が少なく、少し物足りない探鳥でした。私は、2日目は母島の岬に陣取ってホエールウォッチングをしました。はるか遠くですが、ザトウクジラのさまざまな行動を見ることが出来ました。小笠原諸島は、世界自然遺産に認定され、その保全が進められていますが、問題になっているアノールトカゲはあちこちで見られ、種保全の難しさを痛感させられました。父島に移動してからホエールウォッチングを楽しみ、多くのザトウクジラやハシナガイルカと出会えて楽しい時間を過ごせました。

帰路は海が荒れ、デッキに出られず、殆ど船底で過ごさざるを得ず、酒量ばかり進みましたが、楽しい自然観察旅行でした。